

# 中部

## 新会長に出戸端さん 東海富山県人会



東海富山県人会の総会は10月18日、名古屋市中区の東京第一ホテル錦に88人が集まって開かれた。

浅香論副会長が「昭和23年の創立から75年の節目。先人の築いた歴史を受け継ぎ、会をますます発展させ

るとともに、ふるりの弥栄を願う」と挨拶。酒井渉事務局長が会計報告、事業計画などを説明し、役員改選では佐伯外司会長が顧問に就き、出戸端敏彦副会長Ⅱ写真Ⅱが新会長に就いた。平成2年から役員として会の運営にあたった佐伯顧問のメッセージが読み上げられ、出戸端新会長は、「18代目の会長と

して、故郷富山と東海地区の架け橋としての役割を皆様と一緒にならめたい」と挨拶。新田八朗富山県知事、牧野利香愛知県副知事が祝辞を述べた。

懇親会は出戸端会長の発声で乾杯し、郷土の地酒やます寿しが振る舞われ、富山県の各自治体代表者からふるりの近況報告があった。民謡歌手の中村藩・優姉妹のステージがあり、富山県の「ふるさとの空」を合唱。西口友章副会長と新田知事による中締め、高田浩副会長の閉会の挨拶で散会した。

# 同窓会

## 来年の100周年事業を推進

### 越嶺会

富山大経済学部同窓会の越嶺会総会は10月15日、カナルパークホテル富山で開催。来年の100周年記念大会に合わせて日曜日としたところ、行事等が重なり出席できない方が多くなった。

重原佐千子さんの司会で、伍嶋二美男会長、中尾哲雄最高顧問が挨拶し、森口毅彦学部長が学部改組改革について説明・挨拶した。堀田正之副会長を議長に議事を進め、伍嶋会長が100周年記念事業の進捗状況や今後の方向について説明し、拍手で承認された。現役学生の研究発表では「日韓WE E E マネジメントから考える北東アジア



開く竹沢喜孝さんがスピーチした。8月に石川支部長に就任したばかりの森浩一支部長も挨拶した。恒例の「故郷」合唱は若手4人が登壇して

アの未来」と題する内容に、質問も出て理解が深まった。経済学部生2人を含むサックス四重奏は、連続13回全国大会出場を果たしている楽団の紹介や楽器の説明を挟みながら、アンコールもあって和やかな雰囲気になった。

懇親会では中尾最高顧問の発声で乾杯して歓談。東京から参加の飯塚修関東越嶺会長の報告や、富山での個展を

リードし、中尾最高顧問作詞の4番は本人の主唱で、全員で歌いあげた。

## 京都で交流戦、蹴鞠神社奉納も 富山大学サッカー部OB会

富山大学サッカー部OB会（佐幸欣治会長）は、10月14～15日に全国交流会を秋の古都京都にて開催した。今回の幹事当番は関西・東海で、趣向を凝らし初の京都開催となり、各地から31名が参集した。開催コンセプトとして「百寿健康、明るく、楽しく、元氣よく！」が掲げられた。参加メンバー、今後100歳までいっただいあ何万回サッカーボール蹴るのだからう。初日は北区のMKボウルのフットサル会場での紅白戦で開幕となった。北陸、関西と東海、関東の3チームの総当たり戦で、楽しくプレイ、最高齢者



は77歳。日頃の鍛錬ができてくる者、ある程度動ける者、全くの運動不足の者と、徐々に明暗が分かれ、ここでも格差社会が生じていた。とにかく、ケガ人が出なくて何よりであった。懇親会・宿泊会場は、右京区の仁和寺（世界文化遺産）の御室会館。汗を流して、石橋高博幹事長の司会で懇親会がスタート。美酒とともに刺身や天麩羅等に舌鼓をうち、旧交を深めた。話が尽きないメンバー、飲み足りないメンバーにより、延長戦（2次会）は深夜まで続いた。

翌朝は仁和寺ならではの早朝の勤行。参加は自由であったが、凛とした金堂内で仄かに見える阿弥陀様、ローソクの灯り、そしてお経の声、住職様の講話。OB会にしては珍しく（？）格調のある貴重な機会となった。朝食後には白峯神社、通称・蹴鞠神社に向かい、「百寿健康の祈願」と参加者がサインしたサッカーボールを奉納した。来年の富山開催にも、より多くが元気に結集して、交流を深めることを期待している。（飯塚修さん報）